

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

【学力調査結果の概要】

国語・数学のA B両区分および理科のいずれも、平均正答率は、ほぼ全国平均の水準であり、無解答率はすべての区分で全国平均を下回るという良好な結果を維持しています。

またいずれの教科においても、「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」による区分ごとの個々の問題正答率も全国と同様な分布傾向を示しています。理科はすべての領域・観点等で全国平均を上回りました。

正答数分布からは、理科、数学において学力の二極化の傾向がみられました。

<国語A：主として知識>

(成果)

- ・学習した語句の選択や漢字については概ね定着していると考えられます。
- ・領域別・観点別では、概ね全国平均と同様な正答率分布です。「読む」ことに関する問題は全国平均と同じ値で（平成26年度も同様）、学習の成果が現れています。

(課題)

- ・言語についての知識等の観点で全国平均を1.1ポイント(pt)下回りました。（26年度は-0.9pt）漢字の読みや語句の選択、文法知識等が定着していないものと考えられ、日ごろから授業で取り組むことの必要性を感じています。

<国語B：主として活用>

(成果)

- ・平均の正答率は、全国平均を上回り、9問中で概ね6問解けていることとなります。
- ・「話す・聞く」についての問題は全国平均を2.2pt上回りました。
- ・選択式の問題は全国平均を1.1pt上回りました。記述式の問題も0.2pt上回り、あきらめずに問題に取り組む姿勢が見られます。

(課題)

- ・文章の構成や展開を踏まえて、自分の考えを書くことが十分ではありません。
- ・平均の無解答率は1.4%と低い（全国は2.2%）ですが、的確に文にまとめることに課題があります。
- ・自分たちの生活に結び付かないような内容（例えば古典的な内容）については、難しいと捉えてしまっている様子が伺えます。

<数学A：主として知識>

(成果)

- ・二元一次方程式の解の集合に関する問題（全国+7.0pt）等、領域では「関数」に関する問題での正答率が高く（全国+0.4pt）、観点では「数量や図形などについての知識・理解」での正答率が全国平均を上回りました。（+0.2pt）
- ・無解答率が全国平均を下回る問題が多くありました。（36問中24問）

(課題)

- ・基本的な計算での間違いが目立つなど、「数と式」の領域での正答率が全国平均を下回りました。（-2.8pt）
- ・正答率が全国平均を下回る問題が多く、1・2年生での学習内容の定着に課題が見られました。

<数学B：主として活用>

(成果)

- ・領域では「資料の活用」に関する問題（全国+1.7pt）、観点では「数学的な技能」に関する問題（全国+1.2pt）で全国平均を上回り、情報の処理や数学的な表現などには一定の成果が見られました。
- ・記述式の問題にも意欲的に取り組み、無解答率は全国平均を0.7pt下回りました。

(課題)

- ・平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察する問題に課題が見られました。
- ・全国平均を下回る問題が半数あること、学力の二極化がはっきりと表れたことを課題としてとらえています。

<理科>

(成果)

「知識」に関する問題は高い正答率でした。（全国+4.8pt）「授業をしっかりと聞くこと」や「提出物」を徹底したこと、また授業で「めあて・目標」の意識を持たせ、自ら考え発表しようとする姿勢を大切にしていることが成果に現れたと考えています。

(課題)

「活用」に関する問題（正答率：全国+2.7pt）にはやや課題が見られました。特に思考力を生かし、解答を組み合わせる問題の正答率は低かったです。また、実験結果を比較して答える問題、資料を見比べて答える問題、日常で起こっている現象に結びつけて考える問題にも課題が見られました。

<本校の学力向上に関する取組み>



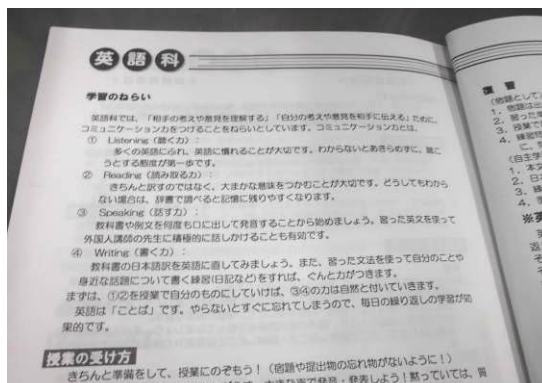
少人数指導：1年生数学・2年生国語で実施しています。考えを発表しあうことで、理解を深めています。



朝の読書：集会のない日は読書に取り組んでいます。落ち着いた雰囲気での一日のスタートを切ることができています。



ICTの活用：学習課題への興味関心を高めたり、学習内容を説明したりするために活用しています。今後もより有効な活用を研究し、充実を図ります。



学習のてびき：学校と家庭とが連携しながら家庭学習の習慣化を図りたいと考え作成・配付しています。今年度、内容の見直しを行う予定です。

<今後の改善方向・取組み>

国語：◇生活の中で使うことの少ない言葉や漢字についても、語彙を増やしていけるきっかけを作り、反復練習を重ねさせる指導を工夫していきます。

◇漢字の定着に向けて、小テスト等の実施や指導の工夫・改善に努めていきます。

数学：○新しい内容の学習の中に既習事項の復習を取り入れた授業を進めていきます。

○基本的な計算力を高めるために、反復学習を取り入れる時間を設定します。

理科：☆実験結果をもとに考察したり、資料を活用したりすることに重点を置き、自ら考え結論を導くことのできるような授業をめざします。

☆学習内容を日常で起こっている現象と結びつけて考えさせることを授業に取り入れていきます。

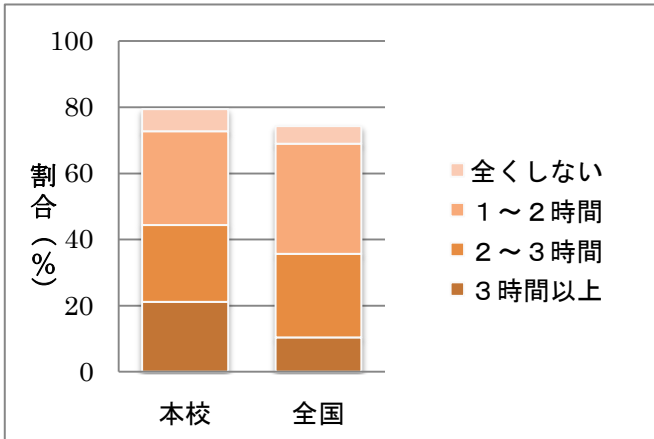
◎各教科の授業で、めあて（目標）の設定、生徒の主体的な学習活動、まとめ・振り返りのある授業スタイルを確立していきます。

◎「学習のてびき」を改訂し、家庭との連携のもと家庭学習の充実を図ります。

【生徒質問紙による学習状況調査結果の概要】

○全国と比較して、本校の生徒の特徴として注目した項目について、その状況をお知らせいたします。

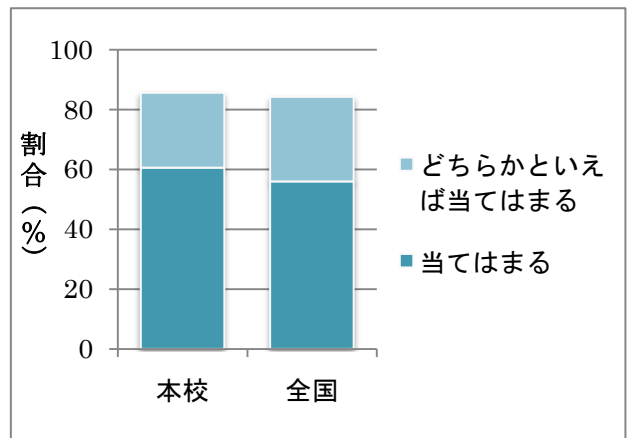
◎授業時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。



授業以外の学習時間が長いということがわかりました。学習に対する意識は高いことがうかがえます。その一方で、「全くしない」割合は全国平均を若干上回っています。自ら進んで計画的な学習に取り組むなど、内容の充実を図ることでさらに成果が出てくるものと考えています。

◎学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

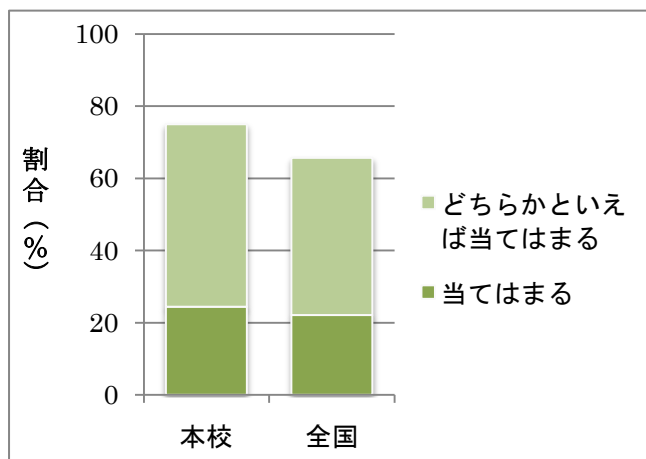
学校行事や班活動を通して、集団での達成感を強く感じていることがうかがえました。学級集団は日々の学習活動の基礎となるものです。親和的な集団づくりをさらに推し進めるとともに、個々の生徒の達成感や自尊感情を高めることにもつながる取組みを学校として研究していきたいと考えています。



◎1、2年時の授業の様子について（②～④は平成26年度の結果とも比較してみました。）

①学級やグループの中で、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んだ。

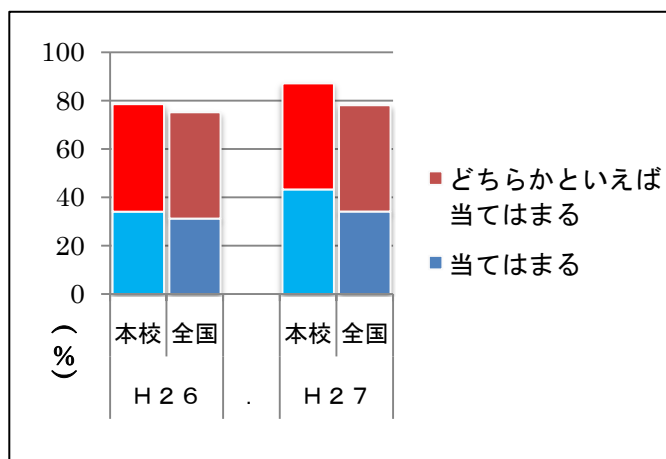
（※H26は設問ありません）



総合的な学習では、課題設定から解決まで主体的に取り組むことが概ねできてきています。それがこの結果にも表れていると考えられます。

教科の学習でも、「追究しようとする意欲がわく」学習課題を設定し、生徒自身が学習し、学びを深める授業づくりを進めていきます。

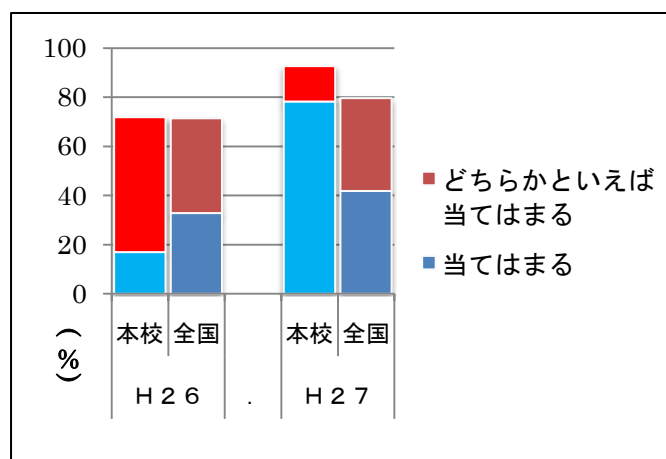
②授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行った。



昨年度の調査でも全国平均を少し上回る結果でしたが、本年度はさらに肯定的な回答をした生徒が増えました。

各教科で授業スタイルを確立させるよう取り組んでいます。生徒の話し合いを取り入れた生徒主体の授業づくりを進めている成果だと考えています。

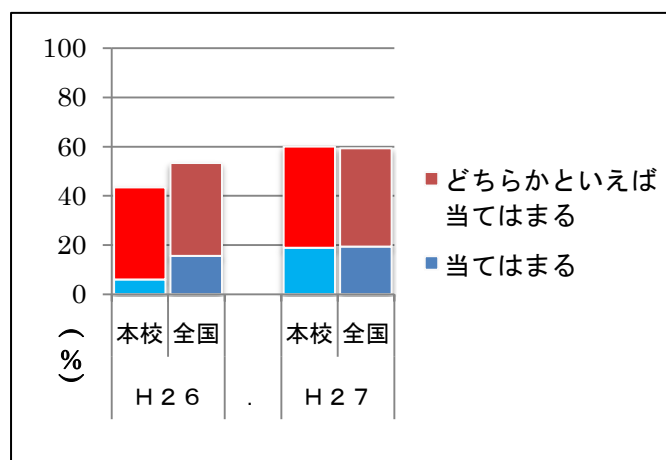
③授業のはじめに、目標（ねらい・めあて）が示された。



平成25・26年度は大阪府の「通常の学級における発達障がい等支援事業」の指定を受けて研究を進めましたが、その中で授業の構成としてその授業での「目標（めあて）」を提示することに全校的に取り組みました。

今後もさらに継続していきます。

④授業の最後に、学習内容をふり返る活動をよく行った。



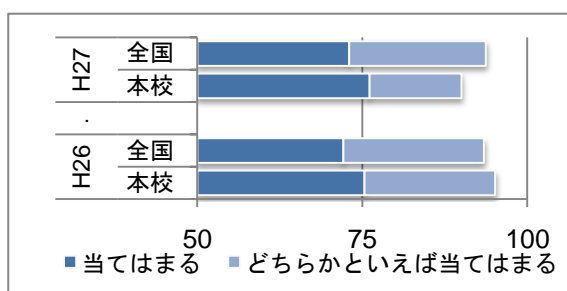
学習内容について、個々の生徒がふり返る活動もほぼ全国平均になりました。

授業の「まとめ」だけでなく、「目標（めあて）」にそって生徒が自分自身の学びについてふり返ることを大切にしていきます。

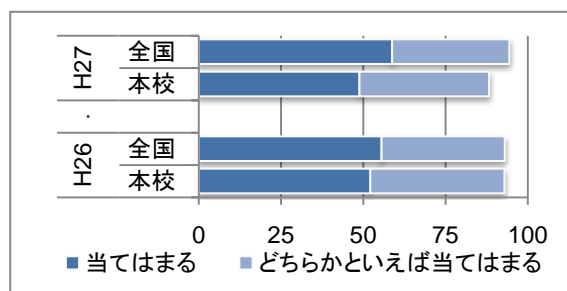
その授業での学びを深めるためにノートやワークシートを工夫していきます。

＜課題として受け止めている事項＞

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」項目で、肯定的な回答はちょうど90%でした。(全国平均-3.7pt、昨年度本校-5.1pt) 10人に1人の生徒がいじめに対する認識が低いことは、気になるところです。

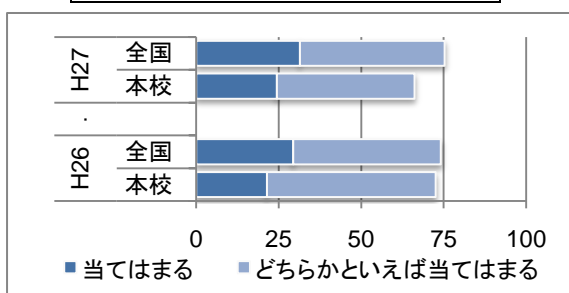


○「学校の規則を守っている」と答えた生徒が88.3%と全国平均よりも低く、昨年度よりも少なくなりました。(全国平均-6.1pt、昨年度本校-5.1pt)

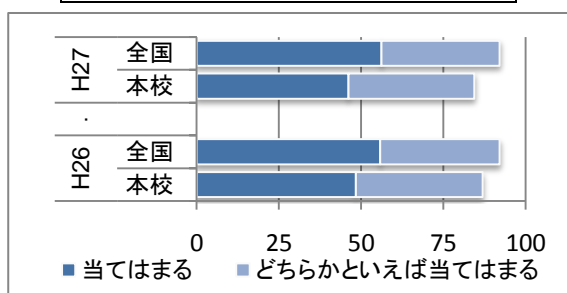


○「就寝時間・起床時間」が不規則であるという、昨年とほぼ同様な結果になりました。特に就寝時間が一定していない生徒が増えています。

毎日、同じくらいの時刻に寝ている

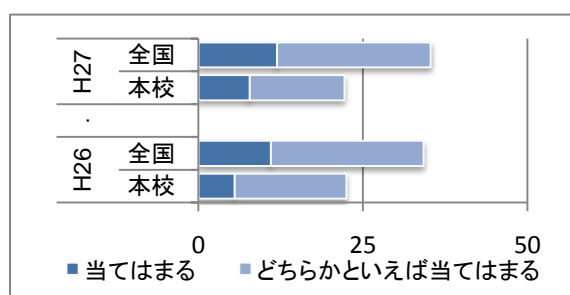


毎日、同じくらいの時刻に起きている

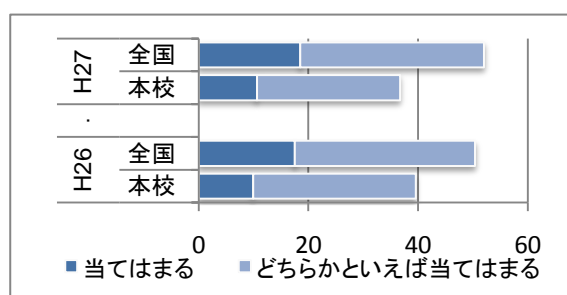


○家庭学習について、宿題をする項目については全国を少し上回っていますが(+0.7pt)、授業の予習・復習を行っている生徒は全国平均と比べ、大きく下回っています。(予習-13.1pt、復習-15.3pt)

家で、学校の授業の予習をしている



家で、学校の授業の復習をしている



○平日、1日当たりのテレビゲーム・メール・ネット等の使用時間が4時間以上である生徒が全国平均に比べ非常に多い結果でした。(テレビゲームは全国の1.8倍、メール・ネットは1.6倍)

○各教科の学習に対する関心や意欲、態度についての質問では、どの項目をとっても、全国平均を下回る結果となり、昨年度に引き続いて大きな課題だととらえています。

<保護者・生徒のみなさんへ>

保護者のみなさんへ

- ・家庭での生活習慣の定着のためのサポートをお願いします。
睡眠・食事などを規則正しく、しっかりと取れるようご協力をお願いします。
- ・家庭での学習習慣の定着のためのサポートをお願いします。
決められた時間に学習できるように、また学習しやすい環境づくりにご協力をお願いします。
- ・子どもとのふれあいを大切にしてください。
子どもたちとの会話を大切にしてください。その中で、あいさつや言葉づかい、話し方などにも注意を払っていただければと思います。

生徒のみなさんへ

- ・毎日の授業を、これまで以上に大切にしましょう。自分で考えたことを、自分の言葉で、しっかり伝えましょう。ほかの人の考えは自分の考えを深めてくれます。しっかり聞きましょう。
- ・家庭での生活習慣・学習習慣については、家族の人と話し合い、時間や環境は自分で決めたり、整えたりすることが大切です。目標と具体的な取組みの方法を決めて、できることを増やしていきましょう。

～身につけたい学習習慣～

- ① 自分で学習計画を立て、それを実行する。
- ② 予習・復習をして授業に臨み、積極的に授業に参加する。
- ③ ノートの取り方、まとめ方を工夫し、効果的に使う。
- ④ 効果的な覚え方、考え方を身につける。
- ⑤ テストの準備の仕方、返却されたテストの活かし方等についてよい習慣を身につける。

大阪狭山市教育委員会の「家庭教育のすすめ」もぜひ参考にしてください。